

2023年度
第5回 理事会議事録

2023年 11月 17日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2023年度 第5回理事会議事録

1. 日 時 2023年 11月 17日 (金) 15:00~17:30
2. 場 所 熊本郷土料理「青柳」
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 13名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議事次第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 報告事項
 - 1) 2024年賀詞交歓会実施について
 - 2) 委員会等活動状況報告
 - ① 中期ビジョン検討委員会
 - ② 人材育成委員会
 - ③ 技術委員会
 - ④ 運営委員会
 - ⑤ (仮称) 建築鉄骨技能検討WG
 - ⑥ (仮称) 図面問題対応検討WG
 - 3) 技能者(現場溶接工、鍛冶工)能力評価制度について
 - 4) ロボット溶接オペレーター資格について
 - 5) 特定技能外国人材対応について
 - 6) 「働き方改革」に関する発信について
 - 7) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について
 - 8) その他 (①50周年記念映像関連 ②BIM関連調査
③一次加工工場の品質管理 ④品質管理責任者)
 - (6) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2023年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (7) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は出雲理事が欠席し 13 名の理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も村上監事 1 名に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「本日は私の地元の熊本にお越しいただき、ありがとうございます。熊本の経済効果にもご協力ください。今日は今年最後の理事会となります。年度末に向けて、いろいろご相談したいと思いますので、よろしく願いいたします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2023 年度第 4 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 報告事項

1) 2024 年賀詞交歓会実施について

1 月に開催される新年賀詞交歓会の実施について、議案書 (p3) にそって、小貫専務理事より以下の説明があり、確認された。

- ・今回は 4 年ぶりの開催となる。
- ・以前、賀詞交歓会の前に講演会等を行うこともあったが、今回は実施しない。

2) 委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会

「中期ビジョン検討委員会」について、議案書 (p4) にそって大島副会長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・2030 年度の目標（個別項目）を委員会でとりまとめ、4 つの視点に振り分けた。
- ・11/8 の委員会で議論し、それに三役の意見を取り入れて、とりまとめる予定である。

② 人材育成委員会

「人材育成委員会」について、議案書 (p5-7 および別紙) にそって、小貫専務理事、大竹委員長から説明があり、確認された。

- ・次世代経営研修はこれまで 4 支部で実施した。ご協力に感謝します。
- ・次世代経営研修のアンケート結果が、直近の北海道まで含めた 4 回分について別紙で報告された。続編があったらまた参加したいと答えてくれたのが

トップ層の方の 95%という結果であった。改善点の意見をふまえ、残り 5 支部の研修をレベルアップさせていきたい。

- ・人づくり研修は内容がまとまってきた。モチベーション（やる気を出す）、対人スキル（後輩に仕事が指導できる、後輩の相談相手になれる、リーダーになれるなど人をまとめるスキル）、自己スキル（会社の仕組みや経理に関する知識、報告などの文書の書き方、業務の改善等）の 3つのコンセプトである。これを進めるために、コンサルタント会社を起用することとし、これから選定して、24 年度下期から開始できるよう進めていく。

③ 技術委員会

「技術委員会」について、議案書（p8-9）にそって佐藤委員長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・溶接施工 WG の活動について、ロボット溶接は費用面で折り合いがつかず不採用となり、現在ファブの選定を進めているところである。
- ・品質不具合事例の調査結果について報告された。
- ・CAD 利用状況調査概要について報告された。

④ 運営委員会

「運営委員会」について、議案書（p10）にそって、妹尾委員長より、以下の内容が説明され、確認された。

- ・鋼材物流の 2024 年問題について、WG を設置（リーダー：猪股副委員長）し、対応していく。
- ・業績調査の回答率向上について、来年の調査に向けて対応していく。
- ・支部の位置付け明確化については、ヒアリングを進めているところである。理事会内容の報告をより充実させる方策を検討している。

⑤（仮称）建築鉄骨技能検討 WG

建築鉄骨技能検討 WG について、秋山リーダーより議案書（p11-12）にそって説明があり、確認された。

- ・「鉄骨組立」の実技試験を、模擬試験の形で 3 人の方に受験していただいた。これをふまえ、試験体の形状を決定した。
- ・学科試験を行う場合の項目について検討している。

⑥（仮称）図面問題対応検討 WG

図面問題対応検討 WG について、秋山リーダーより議案書（p13）にそって、説明があり、確認された。

- ・国や建設業界に対し具体的な要望をまとめるために、建築や法律の専門家のサポートを得て、検討を進めていく。

- ・要望を訴えていく上では、GC等からの不合理な要求の実例をあげることが効果的と思われるので、実例を調査している。
- ・47都道府県の賛同を得て連名での要望書とし、来年3月中をめどに要望をしていきたい。

3) 技能者（現場溶接工、鍛冶工）能力評価制度について

技能者（現場溶接工、鍛冶工）能力評価制度について、小貫専務理事より説明があり、以下の内容が確認された。

- ・前回理事会で、建築鉄骨工事の技能者を対象とすることについては了解し、3団体での申請には協力するも、講習会の採算性については疑問が残るので、講習会運営に参加するかは保留とした。
- ・教育センターの検討結果では収益的に赤字であることが報告され、またキャリアアップシステムに現場溶接工を入れることは、全構協ではなく、現溶協が行うべきとの意見も出されたことから、全構協としては講習会運営には参加しないこととした。

4) ロボット溶接オペレーター資格について

前回理事会で説明されたロボット溶接オペレーター資格に対する各支部の意見が報告され、確認された。

- ・7支部からは別紙のとおり事前に意見をいただいたが、いずれも反対であることが小貫専務理事より報告された。
- ・妹尾理事から中国支部の意見として、「対象者の負担が増えることが前提であることから現状では賛同しかねる、ただ世情の流れの中でより深化した提案となるのであればその時再度議論について賛否を問うていただきたい」との報告があった。
- ・柏原理事から中部支部の意見として、「105社の回答を得たが、58社が反対、残りは大半がどちらでもよいという結果だった」との報告があった。
- ・以上から、全支部が反対ということが確認されたので、全構協としては反対として進めることとした。

5) 特定技能外国人材対応について

特定技能外国人材対応に関係する政府の有識者会議中間報告の内容について、議案書（p14-16）にそって小貫専務理事より以下の説明があり、確認された。

- ・技能実習制度は人材確保と人材育成を目的とした新たな制度に移行し、新たな制度から特定技能制度へ円滑な移行ができるようにする。
- ・新たな制度の受入対象分野は、現行の技能実習制度の内容が当然に引き継がれるのではなく、新たに設定されることになり、特定技能制度の分野に限られる。

- ・新たな制度および特定技能制度の対象分野は、国内労働市場の動向や経済情勢の変化に応じて適時・適切に変更できるものとする。
 - ・現行の技能実習制度から新たな制度への移行に当たっては、現在多くの技能実習生が受け入れられている実態に留意して、移行期間を十分に確保すべき。
- 以上が有識者会議で議論されている内容であり、これが法制化され実施されるにはまだまだ時間がかかることが報告された。
- また、鉄骨製造業の申請に対する経産省からの頻繁かつ緊急の照会への対応状況が報告された。

6) 「働き方改革」に関する発信について

「働き方改革」に関する発信について、議案書（p17-18）にそって小貫専務理事より以下の説明があり、確認された。

- ・チラシについて、前回案に対しいくつか意見をいただいたが、執行部で検討した結果、制作の年月を記入することとし、また配布はデータのみで行うことが報告され、了解された。
- ・ポスター配布方法について報告され、了解された。
- ・新聞広告掲載内容が別紙のとおり報告された。33紙掲載で約180万円と安いことから、1回出してみても、その反応次第で再度出すことも提案され、了解された。
- ・新聞広告掲載のタイミングにあわせてチラシを配るのが効果的なので、各県で対応するよう、支部長から理事長に伝えていただくこととした。

7) 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について

「代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告」について、議案書（p19）にそって小貫専務理事より以下の説明があり、確認された。

- ・本年4月から10月までの職務執行状況である。
- ・定例的な会議等のほか、トピックスとしては、各県の周年行事に出席したこと、また陳情活動や特定技能外国人材対応に関し経産省との協議を行った。

8) その他

①50周年記念映像関連

- ・映像紹介用パンフレットの最終案が別紙のとおり報告された。ただ、QRコードだけは仮なので、ご注意ください。
- ・パンフレットの要望部数を各県から回答いただいた。余裕をもって2万部印刷することとした。

②BIM 関連調査

- ・BSJ (building SMART Japan) からアンケート調査の依頼がきた。
- ・対応として、全構協としては CAD アンケートを行ったばかりなので、本アンケートは行わず、CAD 調査がまとまったときに、BIM 関連調査への対応もあわせて理事会で承認を得た上で回答することとした。

③1 次加工工場の品質管理

1 次加工工場の品質管理について、永井会長から以下の説明があった。

- ・鉄骨製作は専門化が進んでおり、1 次加工は 1 次加工工場での加工が増えてきている。現在では開先加工、摩擦面処理を含む接合部に直接影響する 1 次加工が一般的になった。
- ・1 次加工品は認定では購入品扱いとされている。購入品は受入検査を行っていることが前提にもかかわらず、検査が行われていないのが実態であり、一部の先生からも疑問視されている。
- ・この対応策として、1 次加工品は外注品扱いとし、ただし、第三者機関の評価を受けた 1 次加工工場の納入品については「購入品」と同等の扱いにしたかどうかと考えている。
- ・今日初めて出した話なので、持ち帰っていただき、また次の理事会でお話したい。そこで同意を得られれば、来期に WG を立ち上げたい。

以上の説明に対し、本内容を説明する資料をいただきたいとの意見があり、検討することとした。

④品質管理責任者

品質管理責任者講習制度の実施について、鉄骨技術者教育センターの資料(議案書 p22-23)にそって小貫専務理事より以下の説明があった。

- ・認定では品質管理責任者の要件は経験年数のみであるが、本来必要な知識がないまま品質管理責任者になる事例が増えている。
- ・このような現状に対し、全鉄評と評価センターから教育センターに、品質管理責任者を対象とした講習制度を検討するよう依頼があり、内容を検討してきたものである。

この説明に対し執行部から、この内容は認定の先生方の要請で決めたことであり、決定事項として受け止めてほしい、会員の皆さんの理解も得なければならないので1月の理事長会でも説明する、お金のかかる話なので全構協の構成員には受講料を1社につき1回分補助することを提案したい、との補足説明があった。

これに対し、予算をつけるのであれば本件は審議事項とすべきとの意見が出

され、今回は補助するという方針を審議事項として承認し、詳細を1月理事会で最終決定することとした。

⑤管理技術者資格について

「管理技術者資格」について、小貫専務理事より以下の報告があった。

- ・管理技術者資格の国家資格化について、かねてから福岡の組合から執行部に検討要請があり、地元の国会議員も関与している中で協議をしてきた。その国会議員の提案は、現行の管理技術者資格だけで国家資格化することは非常に難しいが、管理技術者資格と検査技術者資格を統合すれば国家資格化は可能であり、全構協として進めてほしいというものである。
- ・この提案に対して執行部としては、管理技術者資格と検査技術者資格を統合したら資格のハードルが上がり、認定をとるのも難しくなること、また管理技術者資格は教育センターの所管であって全構協が勝手に進められるものではない上、認定の問題や国交省にも関係することから、反対と考えているが、皆さんの意見を聞きたい。
- ・なお、鉄骨技能者資格については協会としても国家資格化を進めたいところであり、議員にはこちらでの協力を要請していきたい。

これに対しては、九州支部長を含め、執行部の判断を支持する意見が多数表明され了解された。各支部で報告するときは、この議事録に沿って説明していただきたい。

また、5月の理事会で「国会議員との付き合いは慎重にする必要があり、理事会でコンセンサスを得て進めること」との話があったが、それをもう一度徹底した方がよいのではとの提案があり、1月の理事長会で説明することとした。

⑥次期会長の選任方法について

小貫専務理事より、2024年度は役員改選の年となるが、今回も従来の選任手続きに準じて、1月の理事会で会長候補者を内定したいと提案があり、その選定方法について諮ったところ、全会一致で「執行部一任」とする案が承認された。

(6) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

議案書により配布され、時間の都合により説明は省略された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

議案書により配布され、時間の都合により説明は省略された。

3) 2023 年度主要会議日程

3/12 の日程（三役会、全鉄評取締役会）が 3/4 に変更になったこと、および 4/12 の日程（全国事務局長会議等）が 4/11 に変更になったことが報告された。

4) 支部報告

〔九州〕

- ・まだまだ活況が続いている。ある G C の支店は来期まで倍々の売上を計画しているような状況。
- ・仕事量がかかなり多いことから、他地域にヘルプをお願いしている。

〔四国〕

- ・四国県内は物件が少ない。
- ・他地区の物件を協力して対応している H グレードファブが目立つ。

〔中国〕

- ・次世代研修会や交流会で会長と話ができてよかったという若手の声が多く、評価が高い。
- ・M 以下は厳しい状況が続いている。
- ・地方自治体では CLT がポツポツと採用されてきている。S 造の良さを PR してほしい。

〔近畿〕

議案書により配布され、担当理事欠席の為 説明は省略された。

〔中部〕

- ・来年秋以降の工事が不透明になってきている。
- ・大型物件もここにきて陰りが見えてきている。

〔北陸〕

- ・地場物件が少なくなっている。
- ・事務所など小さい物件が木造に代わってきているのを懸念している。

〔関東〕

- ・肌感覚では減少している感覚はないが、設備業者が足りなく順番待ちになっていることにより期ズレが発生している。

〔東北〕

- ・次世代研修は盛り上がっていた。
- ・復興関連の仕事は全部終わっているおり、大型も中小も物件が減っている。
- ・山形で各社の山積みをネットで見ると仕事のやりとりができるようになり、他県にも進めようとしている。

〔北海道〕

- ・共催会議で 7 位を報告したところ、次は 3 位以内を目指そうと盛り上がった。
- ・次世代経営研修は大変盛況で来年も再来年もやってほしいという声が出ている。

- ・新幹線、オリンピックなど軒並み遅れている。大型物件でGCが抱えていたサブコンが中小物件に営業を始めて物件が動き出している。

(7) 閉会の辞

以上をもって、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 島	嗣 雄
〃	大 竹	良 明
専務理事	小 貫	武
理 事	佐 藤	正 記
〃	三 浦	隆 宏
〃	秋 山	順 一
〃	寺 田	健 信
〃	柏 原	正 明
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹

理事総数 14名 うち出席者 13名 [欠席：出雲理事]

監事総数 2名 うち出席者 1名 [欠席：五月女監事]